



新累解脫物語

三

^13
3912
3



門へ13
號8912
3

新累解脫物語卷之三

東都

曲亭馬琴纂脩

第五

二靈隱意を責く醜女再び棄らる
一刀煩惱を断く美男初く仕り

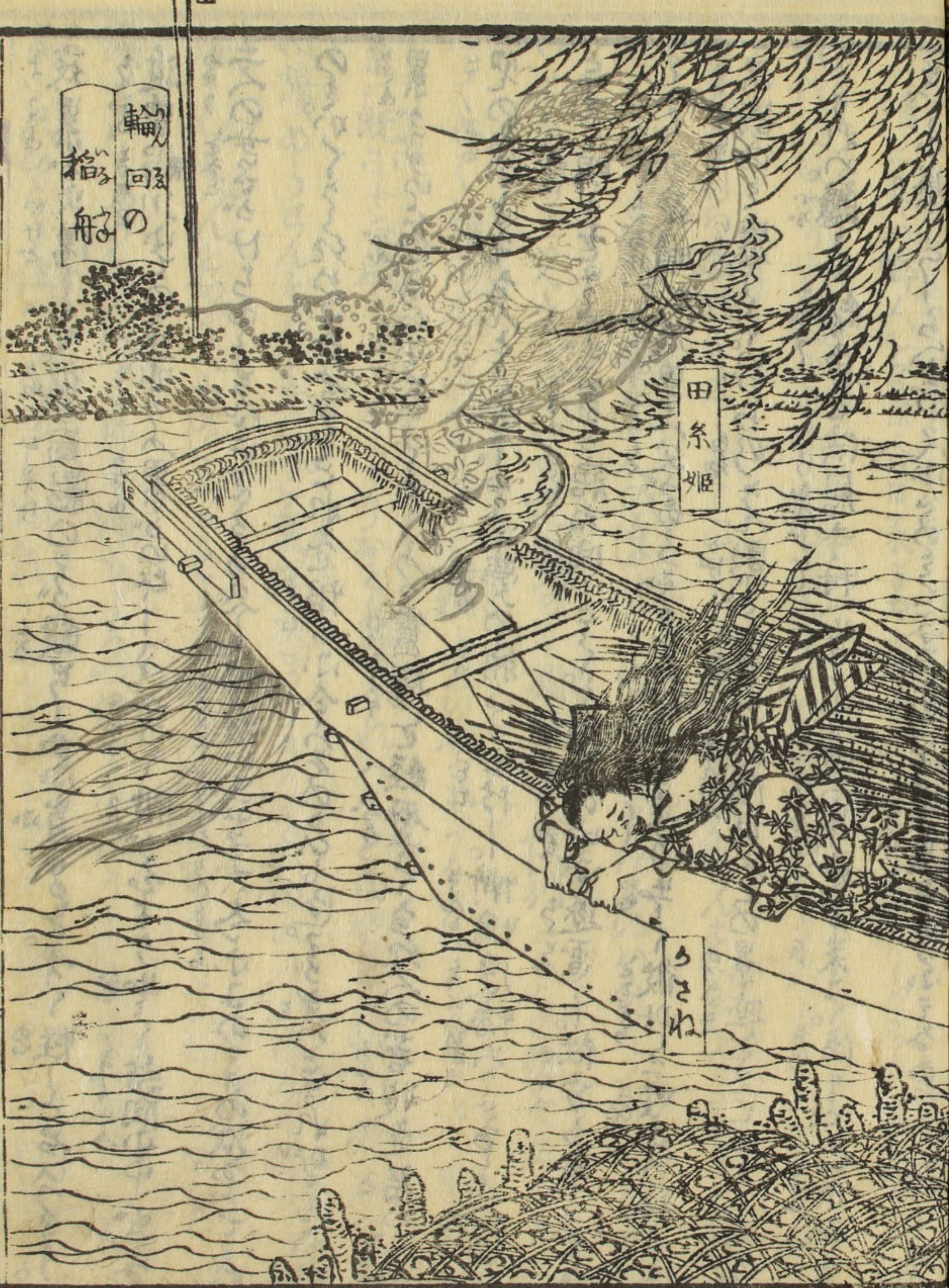
織越と九郎の玉芝を伴つてその本意を遂げぬともおりのちかくは五
六十兩の金をゆくりゆくり羽生村小唄で後田圃を買ひて稼よろしく世を
渡ると近隣の人々怪む彼が武藏小判りて小高まで志すれどくはくは
ちあつた小夥の金の出来ぬやうなり。大く道多しゆ所行をきつたこと
とく山小の拳止小目をつらる人のあねどこれと睦く相語りのことさへ
又典小の形親こととわゆるも似どといふう醜くありされ健小生音くこの後
病つらふあつたり。さう向小父をた出つ一旦葦跡やうあれど願未人を



新累解脫物語卷之三

輪
指の
船

新編源氏物語卷之三



田
糸
姫

う
さ
ね



与
九
郎
門

す
け

新編源氏物語卷之三

夜累が火傷〜。彼が面影の〜が殺〜。一歩の差〜。怪〜。

 近曾細川が〜。亦〜。累が〜。一〜。彼が〜。

 二人の差が〜。縁故〜。

 累が〜。便〜。霊場と経路〜。

 兎のおふ〜。夢の路〜。慚愧後悔〜。

 明〜。累が〜。夜曉〜。

 縁由を〜。

 清三郎〜。

さと清三郎の御人を集合。日未と丸を〜。

 彼作の奴あり〜。猛小亡命〜。

 も交考ねの縁故を〜。

 隠〜。是小人の浮沈〜。

 けく〜。親の〜。

 累の既小十二歳〜。

 相續の〜。

 縁〜。

 憐〜。

 家小〜。

先武藏國石濱より西入権之丞なるまゝ小謀謀く。田糸姫とてあひこぶら
過と新く且く引籠くありける。あは人の疑ひを避んお小一封の願書を
寫す。惟流小獻して。田糸姫のあまより小おはつは。今より身の暇をあり
く。今のおん限り往方と索せし。あまの詩とてあまの願せしりり
と。惟流原末との詔あるとまゝ。叮嚀ふたれを諭し。田糸がわくあまありと
より。國々人をせし。索をせしれども今小ましく信あり。且陰陽師の勘文も
存命むりとも。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
以後世の追薦を肝要あれと仰く。龍遇をば小異あり。されし権と丞留小
後ひ主平小人对し。あまのまゝ。田糸姫のあまのまゝ。原主君の女児小く
あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
これ誓ひ。後妻を娶はとあり。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
らと玉芝の同来田糸姫小は。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
のまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
小ひら。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
信あり。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
く身ま。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
ぬ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
止玉のま。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
のま。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
く物語あり。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
く丞が。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。
くも勝。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。あまのまゝ。

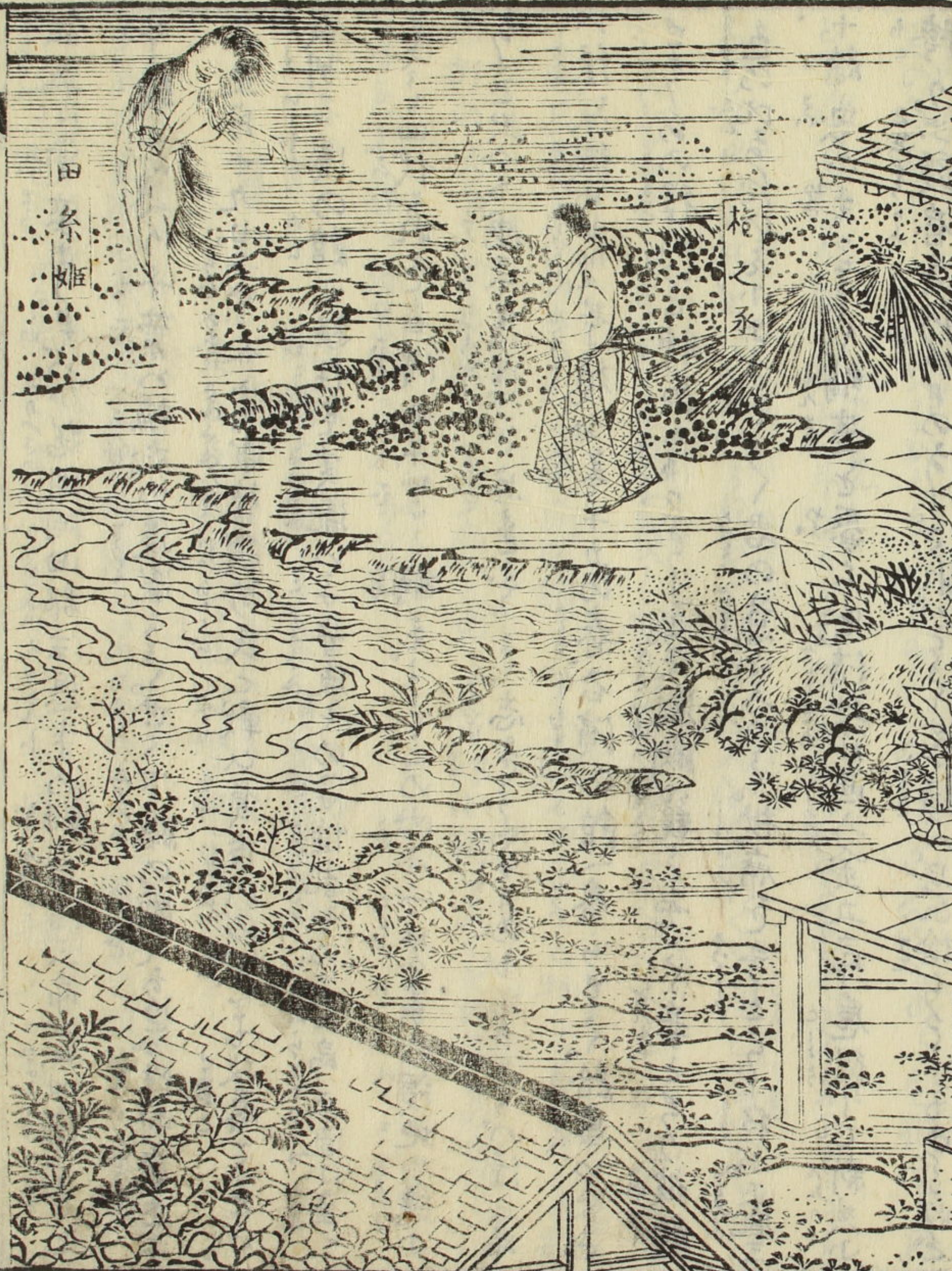
新撰源氏物語卷之三

五

小若の影の我よもせむ。業平の童ら。其言直實小鏡の袖濡さる。敦盛の面影も。それうらとらん。いづれも名をば人も。かか小を焦し。おのひをうらせざるも。は夫人盛ると。天小勝。天定て人小勝といひ。甲包骨が言宣る。権と玉芝の。憎むれば。奸賊の。れど。の手未時。意の随小世を。強れば。志ある。もの。威勢の。拉だ。小黙止。是非と。りの。あう。い。悪業や。報の。た時。あ。り。ん。頃。の。日。十六。日。暑いと。も。堪。ぐ。く。と。権。と。玉。芝。の。小。玉。芝。金。五。郎。と。三。五。人の。奴。婢。と。お。く。墨。田。川。小。蛇。と。は。彼。此。と。漕。ま。れ。富。士。の。頂。ま。う。白。と。逢。小。西。ま。う。楊。国。忠。の。氷。の。山。と。美。津。ま。ぐ。荒。波。の。腰。ま。ぐ。翠。う。く。近。く。東。小。尊。陽。成。帝。の。ま。の。川。と。听。ど。ま。風。小。拂。の。古。塚。の。柳。月。小。思。む。牛。嶋。の。森。烏。鶴。の。樹。を。三。西。く。曹。公。の。赤。壁。も。あ。ひ。お。れ。螢。火。の。曉。の。星。の。と。く。は。た。く。頼。政。が。兔。道。の。川。水。小。似。く。こ。小。の。の。ま。京。く。聴。の。悉。く。奥。あ。し。と。つ。て。推。と。返。い。其。且。回。い。ね。を。あ。き。く。推。借。の。偏。提。う。ら。り。て。川。の。年。奥。せ。魚。と。ら。せ。た。中。く。お。れ。る。く。玉。を。衣。小。繞。ら。く。又。右。小。繞。く。酒。甜。と。り。し。と。玉。芝。竹。の。ま。ふ。お。く。あ。ま。今。様。を。う。ら。ふ。その。声。妙。く。衆。皆。感。あ。り。る。は。如。小。水。際。の。雜。菰。さ。う。く。と。音。く。大。や。る。蛇。忽。然。と。洞。を。出。袖。前。く。と。巻。つ。た。と。玉。芝。月。光。小。や。く。つ。く。あ。ひ。ん。と。け。は。後。小。女。子。ど。も。慌。忙。の。あ。こ。も。か。い。こ。け。の。權。と。正。信。と。え。田。糸。姫。と。声。呼。び。の。人。ど。の。刀。を。引。抜。く。横。ま。の。井。へ。玉。芝。が。首。水。と。は。く。水。中。小。沈。る。紅。波。取。底。小。暈。く。龍。田。川。又。黄。葉。と。流。ま。と。一。金。五。郎。と。吐。き。と。駭。と。父。を。抱。と。西。へ。く。お。の。中。狭。く。立。君。小。自。在。あ。く。これ。八。百。あ。た。母。と。殺。す。と。く。や。く。う。悔。と。は。日。奴。婢。の。久。く。呆。果。の。舞。足。の。踏。と。ころ。を。う。ら。す。その。時。船。樓。の。上。小。可。と。笑。の。声。く。蛇。の。つ。ら。地。か。た。へ。あ。つ。ん。え。

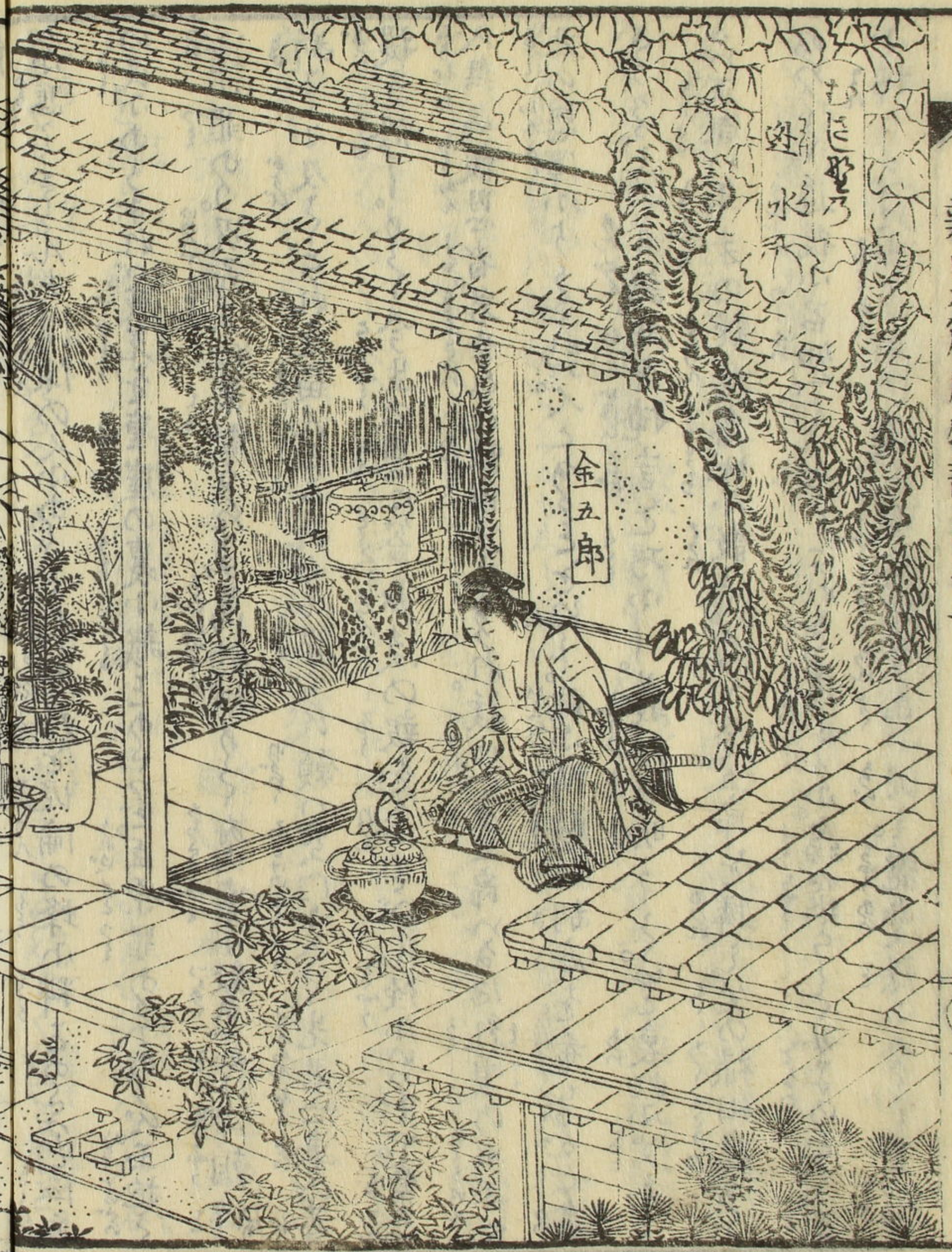
小若の影の我よもせむ。業平の童ら。其言直實小鏡の袖濡さる。敦盛の面影も。それうらとらん。いづれも名をば人も。かか小を焦し。おのひをうらせざるも。は夫人盛ると。天小勝。天定て人小勝といひ。甲包骨が言宣る。権と玉芝の。憎むれば。奸賊の。れど。の手未時。意の随小世を。強れば。志ある。もの。威勢の。拉だ。小黙止。是非と。りの。あう。い。悪業や。報の。た時。あ。り。ん。頃。の。日。十六。日。暑いと。も。堪。ぐ。く。と。権。と。玉。芝。の。小。玉。芝。金。五。郎。と。三。五。人の。奴。婢。と。お。く。墨。田。川。小。蛇。と。は。彼。此。と。漕。ま。れ。富。士。の。頂。ま。う。白。と。逢。小。西。ま。う。楊。国。忠。の。氷。の。山。と。美。津。ま。ぐ。荒。波。の。腰。ま。ぐ。翠。う。く。近。く。東。小。尊。陽。成。帝。の。ま。の。川。と。听。ど。ま。風。小。拂。の。古。塚。の。柳。月。小。思。む。牛。嶋。の。森。烏。鶴。の。樹。を。三。西。く。曹。公。の。赤。壁。も。あ。ひ。お。れ。螢。火。の。曉。の。星。の。と。く。は。た。く。頼。政。が。兔。道。の。川。水。小。似。く。こ。小。の。の。ま。京。く。聴。の。悉。く。奥。あ。し。と。つ。て。推。と。返。い。其。且。回。い。ね。を。あ。き。く。推。借。の。偏。提。う。ら。り。て。川。の。年。奥。せ。魚。と。ら。せ。た。中。く。お。れ。る。く。玉。を。衣。小。繞。ら。く。又。右。小。繞。く。酒。甜。と。り。し。と。玉。芝。竹。の。ま。ふ。お。く。あ。ま。今。様。を。う。ら。ふ。その。声。妙。く。衆。皆。感。あ。り。る。は。如。小。水。際。の。雜。菰。さ。う。く。と。音。く。大。や。る。蛇。忽。然。と。洞。を。出。袖。前。く。と。巻。つ。た。と。玉。芝。月。光。小。や。く。つ。く。あ。ひ。ん。と。け。は。後。小。女。子。ど。も。慌。忙。の。あ。こ。も。か。い。こ。け。の。權。と。正。信。と。え。田。糸。姫。と。声。呼。び。の。人。ど。の。刀。を。引。抜。く。横。ま。の。井。へ。玉。芝。が。首。水。と。は。く。水。中。小。沈。る。紅。波。取。底。小。暈。く。龍。田。川。又。黄。葉。と。流。ま。と。一。金。五。郎。と。吐。き。と。駭。と。父。を。抱。と。西。へ。く。お。の。中。狭。く。立。君。小。自。在。あ。く。これ。八。百。あ。た。母。と。殺。す。と。く。や。く。う。悔。と。は。日。奴。婢。の。久。く。呆。果。の。舞。足。の。踏。と。ころ。を。う。ら。す。その。時。船。樓。の。上。小。可。と。笑。の。声。く。蛇。の。つ。ら。地。か。た。へ。あ。つ。ん。え。

一定めある夜竊小一封の遺書と写す。路費よれ程小用意し。何處とも
 なく逐電ひよたせつといひ権と丞といひ年未かさまの猛れ小似げあく。さむ
 りのめやととえく駭怖れすと棄迹を闇りし彼寃鬼小誘引れ萬里
 のとく小迷ひ出らん。隱匿の報とぼすれ程りく。金五郎の父が遺書を
 えく大よ駭馬の縁故いふともあつたれば。それを追留んとする小。えと往方
 とあつど愁傷のすくく。二日二日と黙止し。かくてあつたれば。縁由
 を正胤小せえあげく。父が遺書を進り。正胤よく同考く。彼遺書とを
 亦尚もふとのすく。ええ君惟胤の寵遇莫大あると。と述すと。田系姫往方るく
 ろりする頃。哀慕小堪さる小。よく。仕を致し。願を偏麻止し。分鏡再合
 の日を圖らんと願もり。小人戎の田系姫既小死り。とつて。許あられ。今
 小ま。十六年。一日も安んを。さる小先君逝去す。ま。望と喪と。い
 う小悲。夫漢陳の人小あつたれば。明珠と泥倫の蜂小料とあつた。泣血
 の民小あつたれば。夜光を重崖の裏小識とあつた。臣原罪あつた。玉抱く
 遂小罪あり。況死生の果敢る。萬鈞ひく。府肉索小繫が如し。一朝絆
 断る。小及く。それを留んとせられども。留らば。願の空門小入る。先君亡妻の菩
 提を修し。今生の恩小答。身後の報を念むべし。怪小い。や。棄恩
 入無為報恩者。君幸ひに怪あつた。れ。孩。金五郎の乳。嘆の由。年々
 君の恩澤小。人。と。を。偏小憐愍の制度を希。と書
 ろり。その言語。非を掩言を巧。義理分明。いと哀れ小。一
 つ。正胤八年。未の疑念。忽地小散る。金五郎を憐。父の縁相違。く
 め。近従小。加。を。小。女子の。世
 小稀。少年。正胤。忽地。男。小。寵愛。殊。小。抑



田糸姫

梅之丞

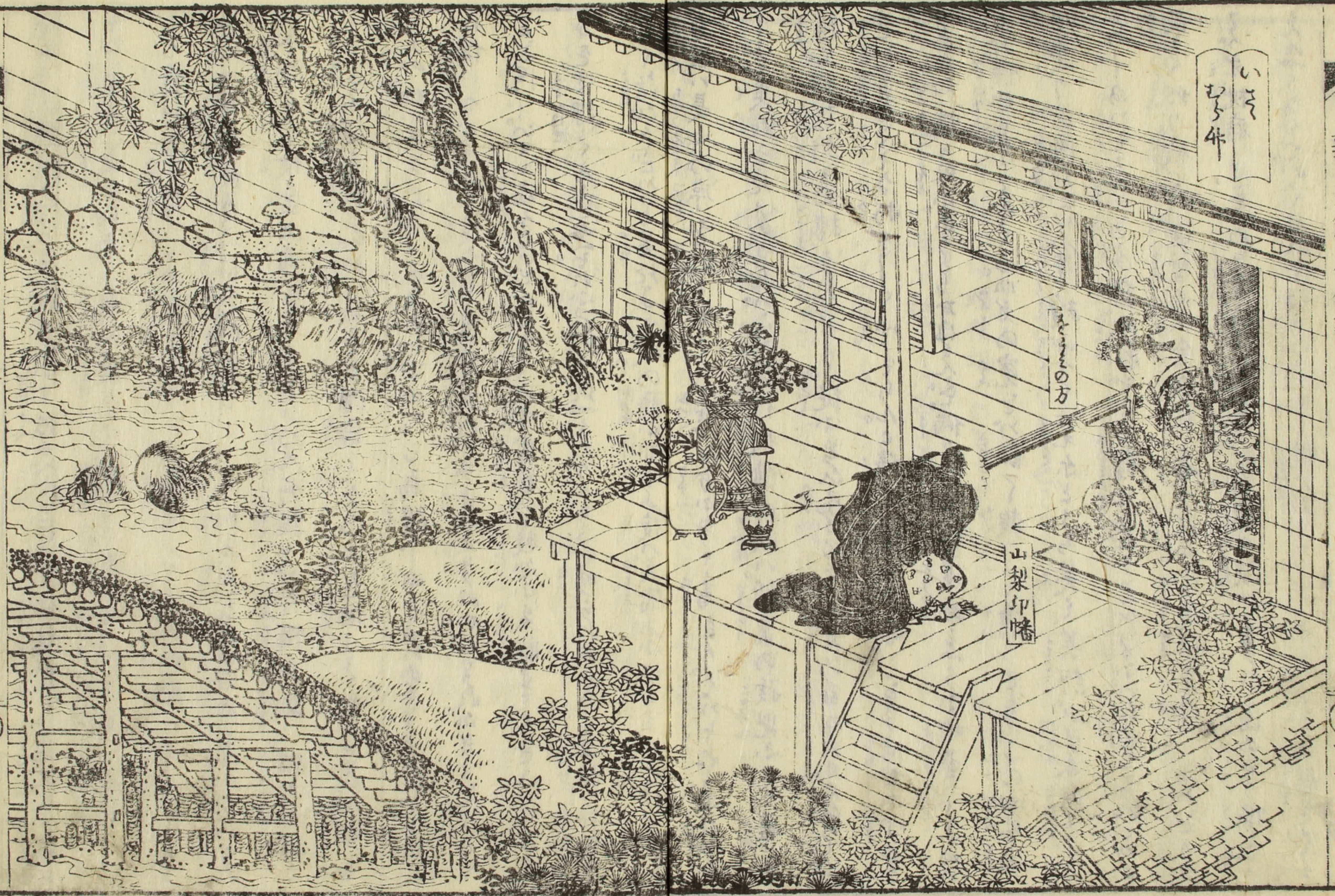


金五郎

むらじろ
水

新田孫作説物五段巻三

十五



いそ
むす件

きよの方

山梨印帳

新田孫作説物五段巻三

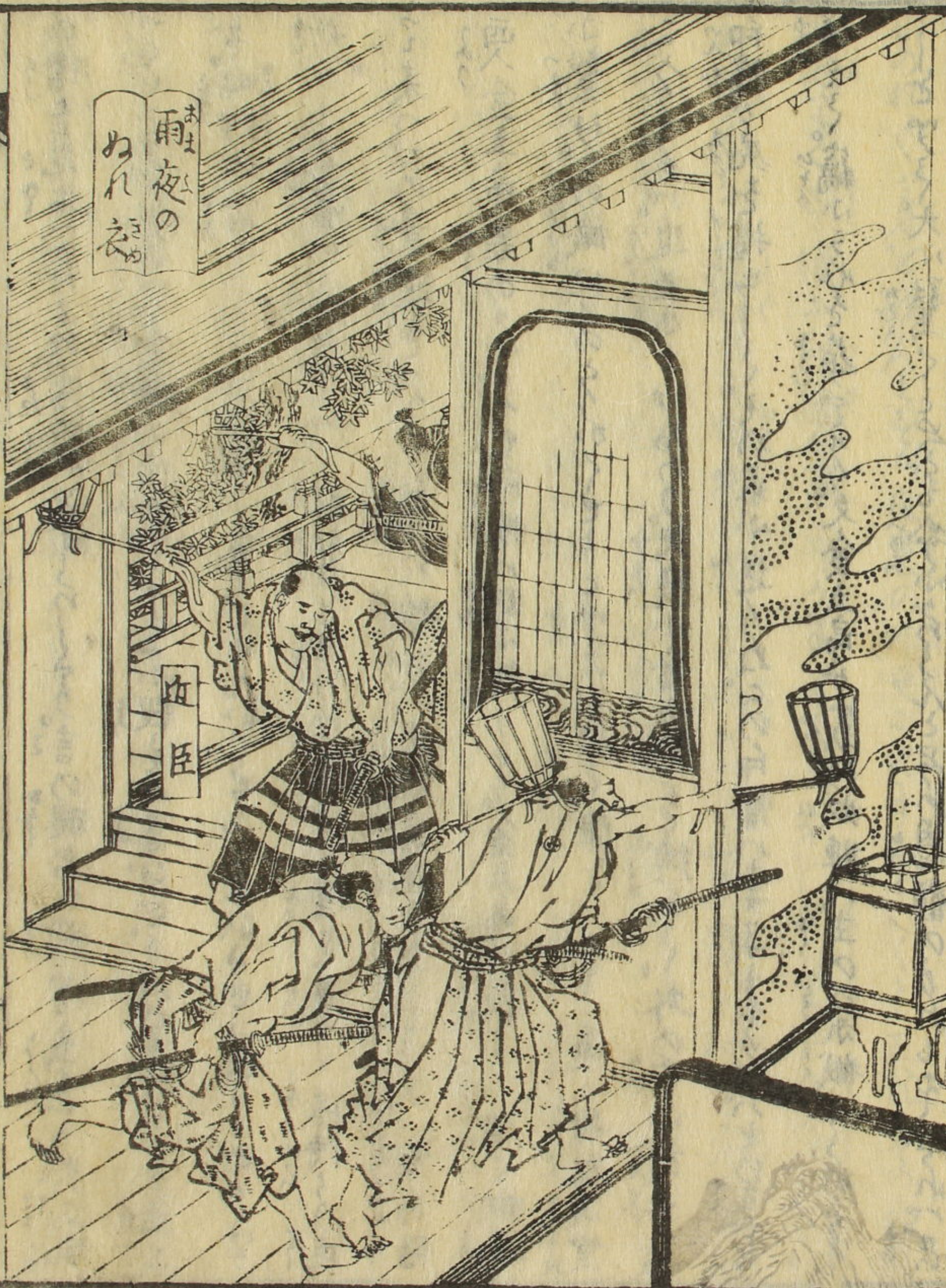
十五

をそこのりく。ころの中ひあり。く。草積が妙見の示現あり。とく。物
 田の足を明曹の角と折せり。二の悪語のこあり。田小足を添れ
 甲とあり。曹小角を添せり。曹あり。唐櫃の甲曹。これ小禍す
 一曉得く。溜す小眼つられ。櫃の裏小人のけり。息あつれ。う
 されば。とく。岸破と反起長押小掛。とく。櫃の真中を
 さと刺も。忍び。叫苦一声。裏より蓋は衝揚る。正胤が。鎧を
 ひけ。全身血小塗れ。轉び。のあり。これ山梨印幡あり。正胤。大
 小怒。逆賊天罰。と。罵も。ぬ。鎧を。印幡が。呪
 を刺。忽。小息。時。金五郎。長。杖。を。巻。え
 つ。鋒先の鮮血を拭んと。正胤。怒。小。堪。ど。金五郎。を。志
 疾視。の。悪。少年。因。心。を。擔。く。恩。を。志。く。豫。く。印。幡。と。密。會。一。彼
 を。唐。櫃。の。裏。小。備。く。を。殺。見。と。ま。り。の。其。処。退。と。り。た。ま。れ。あ
 ら。倉。と。と。死。く。刺。んと。ま。り。金五郎。の。氣。を。く。額。つ。て。中。に
 ず。それ。一。思。あり。と。も。君。恩。の。あ。れ。を。ま。れ。り。小。綿。繡。を。著。口。美
 味。小。飽。竹。の。不。足。あり。君。を。く。も。ん。え。より。印。幡。が。小。躲。あ。る。を。
 夢。小。も。あ。げ。彼。り。君。を。殺。せ。んと。謀。ら。ぬ。を。か。り。持。た。れ。小。身。は。寸。尺。を。帶
 ざる。死。れ。別。小。歌。ま。り。と。り。あり。ん。且。印。幡。と。不。義。の。相。語。を。く。縁。を
 覚。あ。と。と。も。惜。る。君。怒。る。小。棄。く。と。ぶ。討。果。一。あ。を。り。く。縁。を
 鞠。向。小。由。る。た。金五郎。が。不。喜。小。あり。印。幡。既。小。死。れ。面。あり。恨。め。死
 目を。解。と。も。諾。あり。但。印。幡。が。寢。処。小。備。あり。と。き。越。度。小。あり。て
 首。を。刎。ら。れ。ん。是非。小。及。り。と。執。逆。の。ゆ。れ。衣。を。被。ら。れ。ん。死。ま。り。伏。く
 目。を。肉。に。ゆ。り。と。悼。り。と。果。く。頭。を。擡。り。刺。ぬ。と。死。ま。り。小。衣

新編源氏物語卷之三

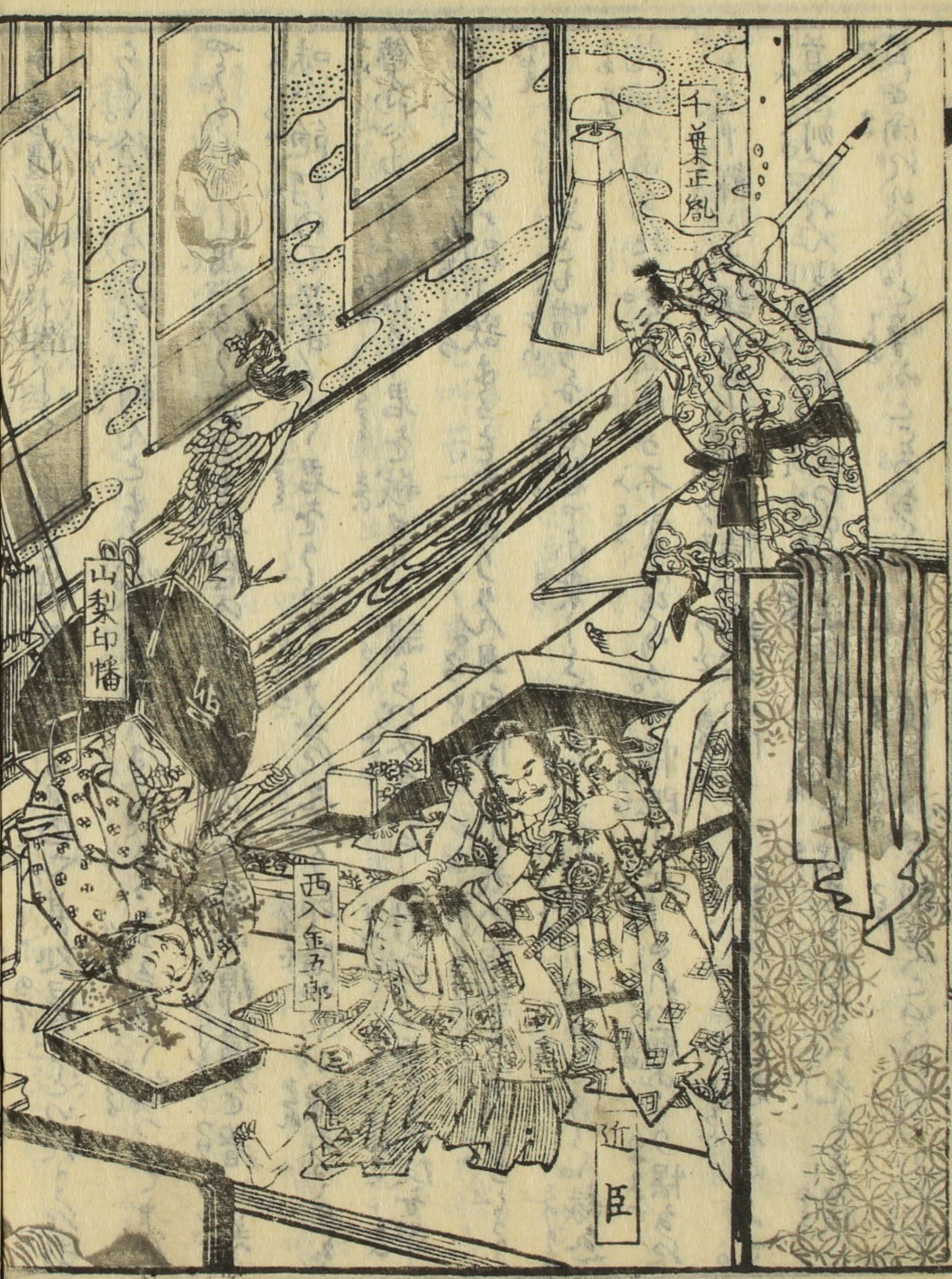
三

雨夜の
ねれ衣



近臣

千重正胤



山梨印幡

西入金五郎

近臣

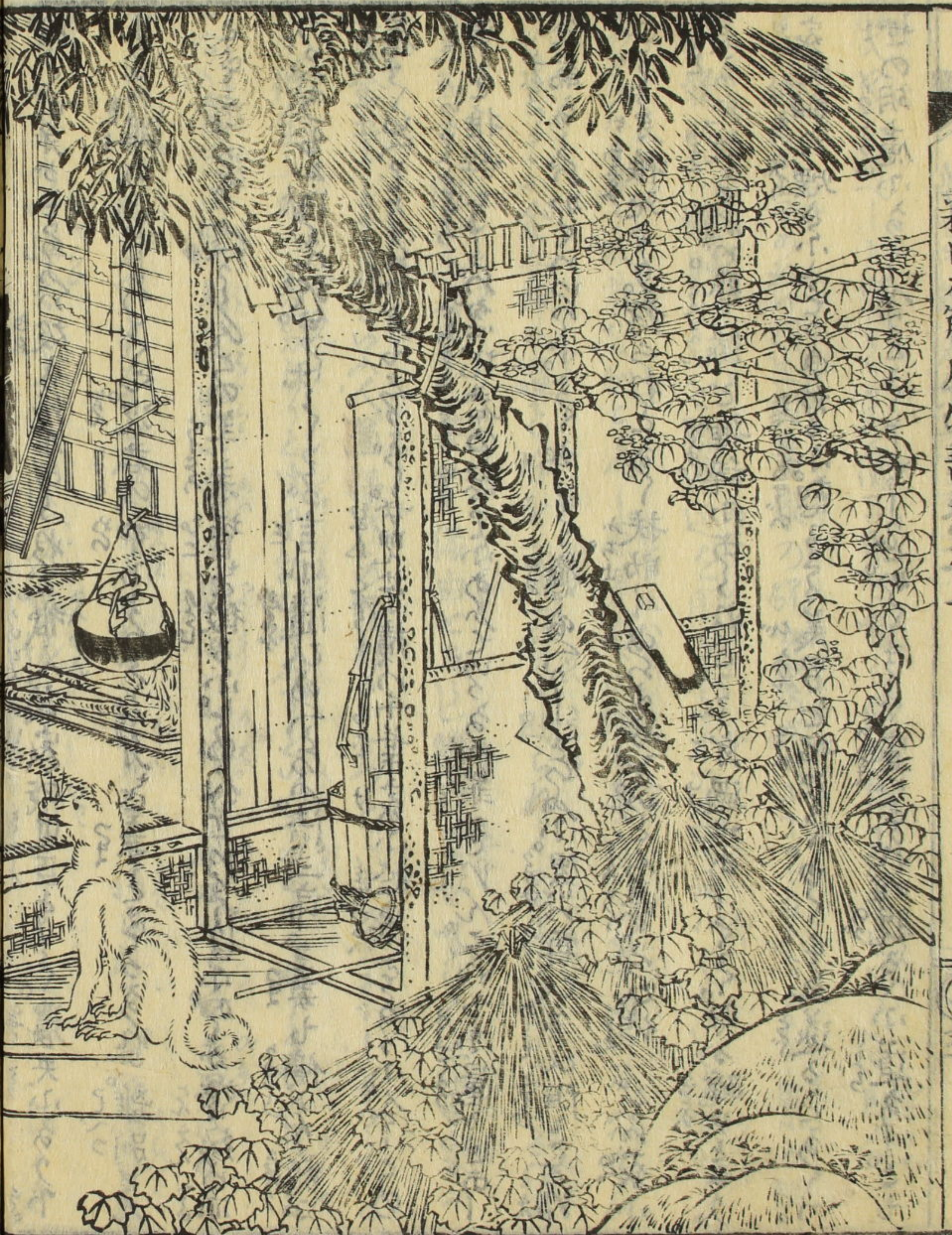
の襟を左右へつたれば雪の肌とあつりしり言の眼を断る氣もあれば正胤
 ついでとて忍比愛惜の情度をもよおし殺さず忍びど。それごとくこれを免
 ぐ。妬指の念をもちまぶれやう。とぞんかくんとおひとひとくありけ
 折しも宿寢の近臣やう。群御音とゆつけ。おし。燭を秉く。遠待より走
 り来つ。この景迹をえとて。發つた騷げ。正胤近臣をえとて。山梨印幡
 西入金五郎罪の小よつて。印幡の既小誅し。金五郎へ嚴しく縛て獄屋
 小繫げ。その穢れりのうかくせとて。けえあはれ。捨をその。夏と投捨。後堂
 よう。まじ。近臣ホラけあつり。矢庭小。金五郎を縛り。外の方小。罰出。し
 印幡が屍を握ち。と。の。お。小。送りぬ。この印幡の妻子もあられ。ほどの友ら
 憐れ。竊小。られを。葬り。又。金五郎が家の奴婢へ。主の禁獄。せられ。さ
 うと。ぞ。大小。驚く。と。と。お。小。ら。んと。と。恩顧の。れ。も。あ。つ。れ。ば。只

おのれくが身と脱んとする用意の外。更小。心。ず。り。か。く。正胤。の。夜。奥
 の。定。ま。く。学。債。小。印。幡。金。五。郎。く。と。や。え。ま。じ。妙。見。の。示。現。全。く。這。奴
 ホ。二。人。か。み。り。の。信。心。つ。と。懈。ま。へ。び。と。を。仰。り。其。丁。債。の。豫。と。謀。を。定。め。金。五
 郎。を。殺。す。印。幡。と。も。殺。す。と。吐。裏。と。する。の。あ。り。せ。と。計。較。こ。る。も
 印。幡。の。と。命。以。預。し。金。五。郎。ハ。獄。屋。小。繫。れ。る。と。ま。ま。案。小。相。違。し。る。は
 言。と。巧。う。く。入。金。五。郎。の。あ。り。ま。ふ。や。ら。り。ま。れ。よ。正胤。ハ。笑。惟。胤。の。勝。り。を
 思。慮。あ。つ。ら。ま。し。半。信。し。半。疑。ひ。ま。が。う。く。刑。と。行。は。と。その。後。金。五。郎。を
 引。出。し。鞠。回。と。數。回。ふ。及。び。り。と。の。あ。り。ま。め。小。違。小。り。を。免。れ。を。祝。ふ
 助。命。の。こ。ま。決。し。有。一。日。正胤。学。債。小。つ。り。を。め。金。五。郎。実。ハ。弑。逆。の。こ。ろ。は。但
 印。幡。と。竊。會。し。る。は。證。据。分。明。な。れ。ば。罪。免。と。ま。が。ら。び。と。こ。も。家。小。罪。人。ま
 じ。主。君。の。不。徳。う。く。子。孫。の。名。小。あ。ら。に。因。り。助。が。ら。彼。が。一。命。を。助。け。生涯

物故おとせし不忠の天罰をあらせむとて、頃日その女を尋思する。不彼ハ世小稀あり。美男小く令茲十六歳あり。これ小なる醜婦を妻せむ。彼いりて物故おもはざらん。まうと死小印指と不義の相語りて悔。こゝ恩の高れとをひまふ。今殺すも勝りて。こゝ憤をこゝそ。いざれり。てその醜女を索す。小やと易うに故いふとされ。彼を富家の婿とせば。その妻醜くも外宅の妻。娘んと難う。こゝ家貧し。死めの子。見以妻を。こゝ彼艱難をば。こゝに従屠兒と。兒の女。小もせ。夜又は守り。死。死女あり。こゝ金五郎と女婿と。こゝ小ひまうせん。めと。こゝ亭績ハ正亂の金五郎を。殺し。い。こゝとん。こゝま。こゝ丸。こゝ冷。こゝ忽。こゝ地。こゝち。こゝ笑。こゝこ。こゝや。こゝや。こゝ救。こゝれ。こゝ罪。こゝ人。こゝ以。助。今。お。り。せ。ん。と。宜。は。さ。る。君。の。仁。政。と。有。り。て。竹。の。こ。の。が。故。郷。小。一。人。の。死。女。あり。彼ハ羽生村の農夫と。丸。丸。丸。と。い。ひ。の。女。兒。よ。と。名。以。累。と。よ。り。こ。の。醜。女。小。

目いあやう言は横さふ由が。そのたの足蹙り。母ハ産後日。が。こゝ。又。十年。あ。こゝ。前。不。仕。方。あり。こゝの。家。空。く。負。し。た。物。凄。し。醜。女。な。れ。年。来。婿。と。索。す。縁。結。と。い。ひ。の。は。り。殿。仰。せ。金。五。郎。婿。と。は。多。多。累。が。お。ま。大。なる。僥。倖。あり。こゝの。ひ。ら。ひ。こゝ。又。清。三。郎。を。よ。く。あ。う。て。ゆ。れ。と。い。ふ。正。亂。こゝ。奴。公。を。縁。由。と。老。臣。仰。せ。下。總。より。清。三。郎。と。は。多。多。累。が。お。ま。幸。侯。が。せ。小。遠。く。清。三。郎。累。が。父。丸。丸。と。從。弟。あり。る。故。小。今。多。多。累。と。扶。助。を。と。小。正。亂。と。ね。く。金。五。郎。が。罪。あり。を。説。き。し。彼。を。下。し。累。が。婿。小。なる。べ。し。汝。よ。り。こゝ。討。せ。よ。と。宜。り。納。聘。と。く。金。五。郎。あり。と。逃。と。さ。り。ぬ。ハ。清。三。郎。と。く。縁。由。彼。ハ。死。な。れ。ば。年。来。女。婿。と。索。す。不。終。く。夫。と。な。る。ん。と。い。ひ。の。ひ。ら。ひ。こゝ。清。三。郎。ら。ふ。と。ひ。も。う。は。を。殿。の。仰。と。こゝ。由。緒。あり。と。あ。い。と。る。累。が。い。ひ。も。う。と。清。三。郎。が。乃。も。大。なる。僥。倖。あり。婚。縁。の。り。仔細。ひ。り。と。兼。言。せ。り。こゝ。こゝ。近。は。金。五。郎。と。

新編海防物語卷之三



新編 浮城物語 卷之三

